

年頭のご挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年、京都・清水寺で発表された「今年の漢字」が「北」でございました。この言葉に象徴されるとおり、国内外にわたりいろいろな出来事がございます。また、政治面でも、紆余屈折を経て、第四次安倍内閣が発足したところでございます。

そのような中で、私の目には、世代交代について、想いを巡らせる機会が多かったと改めて感じ入ります。天皇陛下の退位が来年4月と決まりました。その他、陸上では、ウサイン・ボルト選手が引退したかと思えば、日本陸上界では桐生祥秀選手が100メートルで初めて10秒の壁を破りました。将棋の世界では、「ひふみん」こと加藤一二三九段の現役引退の傍ら、藤井聡太四段が29連勝。羽生善治竜王にあつては、永世七冠という偉業を成し遂げております。

さて、私ども福祉分野を振り返りますと、平成28年に本県で起きた大変痛ましい事件のあった障害者支援施設について、昨年は、その再生基本構想がまとまりました。また、国においても、介護・医療報酬の同時改定の方性が示された他、議論が続けられていた、いわゆる「我が事・丸ごと」について、「地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進について」と題した三局長通知が示されたところでございます。

これらのことから、これまで社協が取り組んできた住民相互の支え合い・助け合いの地域づくりを、次なる世代の私たちが一層強めていかなければいけないと考えております。そこで、世代や立場、分野や種別を超えて、幅広い関係者の参加や協働により取り組みを進めていき、三年次となる本会活動推進計画の基本理念「住民の主体的参加と様々な主体との協働による誰もが安心して生活できる地域づくりの推進」の実現に向かっていく。そういう機運をオール神奈川で盛り上げていくことが改めて大切だと思うわけでございます。

本年も皆様のお力添えを賜りながら、未来の希望へつなげる努力をしてまいりますので、引き続きご理解とご支援・ご参加を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

会長 篠原 正治

思いやりや助け合いの心を育みながら、基金を活用した取り組み

■大切な参加のかたち

本会では、「ともにしび基金」をはじめ「かながわ交通遺児援護基金」、「かながわ子ども福祉基金」等の各種基金への寄附や物品の寄贈等、地域福祉の推進に向けたご支援・ご協力を多くの皆さまからいただいております。

寄附や寄贈も、多数ある福祉活動の中の大切な参加のかたちの一つです。今回は、本会における各種基金を活用した取り組み状況をご報告するとともに、昨年12月にご寄附いただいた皆さまをご紹介します。

■地域福祉活動の充実

「ともにしび基金」

昭和52年に「ともに生きる福祉社会づくり」の推進を目的に創設されて以来「ともにしび基金」は、福祉意識の普及・啓発やボランティア活動への支援、障害のある方の社会参加の促進や市町村域での地域福祉の推進といった、さまざまな活動への助成等を実施してきました。こうした取り組みに対する県民の皆さまからの温かいご支援により、平成29年11月末現在で基金保有額は23億2千400万円となりました。

ともしび基金の活用の一つとして「地域福祉活動支援事業」があります。この事業は、県内の当事者組織

や広域的なボランティアグループ、市町村域の福祉関係者からなるグループ等による「住民主体の支え合い活動」に係る経費の一部を助成するもので、本年度は46団体の活動に対して助成しました。

●(特非)川崎ダルク支援会川崎ダルク Cozy Place

助成した団体の一つ(特非)川崎ダルク支援会川崎ダルク Cozy Placeは、薬物依存症回復施設を運営する川崎ダルク支援会により、平成26年に通所施設として開設された、県内唯一の女性の薬物依存症回復施設です。当事者の回復を支援する中で自主製品を製作し、就業意欲の促進を図っています。

現在20歳代から40歳代の利用者が月3千円の利用料を負担し、平均週3回のペースで通所しながら自主製品を製作しています。生活保護の窓口や病院から勧められてきた方、インターネットを使い調べて来た方、家族が依存症に気付き利用につながった事例もあり、幅広く受け入れを行っています。

手芸品の製作・販売を通じて社会との接点が生まれ、働く意欲が増すことにつながるとともに、人と接することを苦手とする依存症の特性を持つ利用者が、それを克服し、接客

業に就く方も多いそうです。

助成金の活用により、材料が少し余裕をもって用意できるように、講師と利用者で材料をどのように使っていくか話し合うようになるなど、製作意欲が沸き、活動を活性化することができたと言います。



「川崎ダルク Cozy Place」での製作の様子

●横須賀市社協・ボランティアセンター「ふれあいキャンプ」

市町村域における福祉の学びの推進に対する取り組みとして、横須賀市社協ボランティアセンター主催による「ふれあいキャンプ」に助成しました。この事業は、知的障害のある子どもたちがボランティアと1泊2日を過ごすことで、自立心や社会性を養い社会参加へのきっかけを作ること、また保護者には、子どもと離れる時間を提供し、リフレッシュを図ることを目的としています。併せて、キャンプの企画・運営を高校

生・大学生による実行委員会が担い、その活動を通し自らが主体的に行動し取り組むことで、ボランティア活動の学びの場として、ボランティアリーダーを育成することも狙っています。

本年度は知的障害のある小学4年生から高校3年生までの子どもたち25名をはじめ、ボランティア実行委員や養護学校教員等のアドバイザー、日帰り参加ボランティア、地区社協、ボイスアウト等協力団体および事務局の総勢140名の参加となり、参加者1名に対し、ボランティア2名がバディとして常に寄り添い、レクリエーションやハイキング、寝食を共にすることでお互いの理解を深めました。



「ふれあいキャンプ」でのひとコマ

40年前、養護学校の移転に伴い、保護者の有志により始められ、今回で第40回を迎えるという歴史を重ね

る中で、プログラム全体がスムーズに進められ、地域に定着している取り組みであることが伝わりました。横須賀市社協ボランティアセンター担当者は、今後もふれあいキャンプをボランティア活動の入口に、さまざまな活動へと展開できるように働き掛けていきたいと抱負を語りました。

本年度の助成交付決定団体一覧は、本会ホームページに掲載しています。また、本助成事業は来年度より内容の一部をリニューアルして実施します。こちらの詳細につきましても本会ホームページにてご案内しておりますので、ぜひご覧ください。

■子どもたちの自立のために「かながわ交通遺児援護基金」

交通事故等による20歳未満の遺児とその世帯を支援する「かながわ交通遺児援護基金」では、①小・中・高校入学及び卒業時の激励金、②労災見舞金を受けていない世帯に対する見舞金の支給、③関係団体活動費の助成、④夏休み親子交流会、コンサート招待の交流事業等を実施しています。

平成28年度に県民の皆さまや企業等から寄せられた15件の寄附金は、遺児らへの激励金として33件、見舞金2件とともに、基金の運用益と合わせて交流事業や関係団体への助成

金等に活用させていただきました。

●夏休み親子交流会

(公財)神奈川新聞厚生文化事業団と本会が主催し、政令指定都市各社協の共催により毎年実施している「夏休み親子交流会」は、通算22回を数えます。本年度は平成29年8月25日・26日にわたり、東京ディズニーリゾートで行われました。

23家族59名の参加者は25日に東京ディズニーランドで自由に楽しんだ後、宿泊先のホテルで開かれたパーティーに参加。お互いの交流を深めながら、テーブルごとに競うゲームやビンゴ大会などで楽しみ、親子で心に残る夏休みの思い出づくりとなりました。

「かながわ子ども福祉基金・萬谷児童福祉基金」

本会では、さまざまな理由により親と共に生活することができず、県内の児童養護施設等や里親のもとで生活している社会的養護を必要とする子どもたちを対象とした支援を行っています。

「かながわ子ども福祉基金」は、①私立幼稚園への入園や私立高等学校等へ入学する際の奨励金、②民間アパートに初めて入居する際の自立支援金、③施設長や里親による身元保証の損害賠償事業等に活用されています。平成28年度までに交付した奨励金は、延べ1506件(幼稚園45

2件、高校等1054件)、自立支援金は延べ100件になりました。

「萬谷児童福祉基金」は、故・萬谷富子氏から「児童養護施設を終えた者の進学又は自立の援助に」と遺贈された原資を元に、平成19年に創設されました。現在、基金は果実運用益のみで運用されており、社会的養護のもとで育つ子どもたちを対象に、四年制大学、短期大学、専門学校等へ入学する際の支度金の支援を行っています。平成28年度末までに延べ88人を支援しています。

このような各種基金に対する寄附金に加えて、福祉サービス利用者の送迎等に利用される福祉車両や年末のクリスマスケーキ、暑い季節のアイスクリーム、さらにミュージカルやサーカス、プロ野球観戦等への招待等、たくさんの方々から温かいご支援をいただきます。それらは高齢者・障害者・児童福祉施設利用者の他、生活困窮世帯に対する支援として、それぞれの充実した生活環境づくりに生かされています。

本会では今後も、こうした寄附者の皆さまのご意向を大切にしていきたいと思いますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

(地域福祉推進担当)

ともしび基金への寄附をはじめ、皆さまの温かい心に感謝申し上げます！

(いづれも順不同、敬称略)

【ともしび基金】

▽明徳湯▽県西教育事務所▽県立さがみ緑風園▽横浜水上警察署▽浦賀警察署▽よねの湯▽県立逗葉高等学校▽中原警察署▽県警鉄道警察隊▽ともしびショップなのはな▽県立大船高等学校▽逗子警察署▽松田警察署▽茅ヶ崎警察署▽県警第二機動隊▽県警科学捜査研究所▽県警第二交通機動隊▽県警機動捜査隊▽神奈川県税務所▽県厚木土木事務所東部センター▽横浜市婦人団体連合会▽協隆志▽県立西部総合職業技術校▽厚木警察署▽横須賀警察署▽県立茅ヶ崎養護学校▽都筑警察署警務係▽(福)湘南福祉協会総合病院湘南病院▽相模原南警察署▽藤沢警察署▽田浦警察署▽県警高速道路交通警察隊▽保土ヶ谷警察署▽港南警察署▽大船警察署▽ともしびショップさくら運営委員会▽いなり湯▽県温泉地学研究所(管理課)▽パスポートセンター県央支所▽戸部警察署▽県西土木事務所▽県警察学校▽県立大楠高等学校▽川崎警察署▽藤沢北警察署▽幸警察署▽相模原警察署▽多摩警察署▽戸塚警察署▽大磯警察署警務係▽伊勢原警察署▽米警察署▽宮前警察署▽県央地域県政総合センター▽座間警察署警務係▽県警本部交通指導課▽三崎警察署▽神奈川県住宅供給公社▽マエダ薬品商事(株)▽ともしびショップゆめ散歩▽第二常盤湯▽平塚警察署▽県企業庁相模川水系ダム管理事務所▽県警川崎市警察部▽海老名警察署▽葉山警察署▽(一社)かながわ土地建物保全協会▽(公社)認知症のひとと家族の会神奈川県支部有志▽県立生命の星・地球博物館▽藤沢県税事務所▽中井やまゆり園管理課▽県立岸根高等学校▽県厚木土木事務所津久井治水センター▽中島湯▽神奈川県道路公社▽県立横須賀大津高等学校▽(公財)神奈川県芸術文化財団音楽堂▽(福)恩賜財団済生会支部神奈川県済生会湘南平塚病院▽介護老人保健施設リバーイースト▽神奈川県交通遺児家庭の会▽(特非)神奈川県ホームヘルプ協会▽県民センター募金箱▽(福)神奈川県共同募金会▽ともしびショップスマイル▽(公財)神奈川県身体障害者連合会▽ともしびショップ県民センター店▽(公財)神奈川県老人クラブ連合会▽(公財)神奈川県福利協会▽神奈川県医療福祉施設協同組合▽(公社)神奈川県社会福祉士会▽(特非)神奈川県障害者地域作業所連絡協議会▽神奈川県手をつなぐ育成会▽神奈川県知的障害者施設団体連合会▽(一社)やまゆり知的障害児者生活サポート協会▽(一社)神奈川県保育会▽神奈川県保育士会▽神奈川県ゆりの会▽(特非)フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会▽神奈川県心身障害児父母の会連盟▽神奈川県肢体不自由児者父母の会連合会▽(一社)神奈川県高齢者福祉施設協議会▽(一社)神奈川県健康生きがいづくりアドバイザー協議会▽(有)日栄浴場▽喜久の湯▽ダン・デ・リヨン▽県庁・県警職員一同▽県社協職員一同 (計521,629円)

寄附のご案内

本会では、各基金へのご寄附を受け付けています。

- 「一般寄附(金品)Ⅱ」「社会福祉のために」「障害児者のために」など寄附の趣旨に基づき、さまざまな活動に役立てられます。
- 子ども福祉基金Ⅱ児童養護施設等で生活する児童や里親に養育されている児童を支援するために役立てられています。
- 交通遺児援護基金Ⅱ交通遺児や、その世帯を支援するためのさまざまな事業に役立てられています。
- ともしび基金Ⅱ「ともに生きる福祉社会づくり」をすすめるためのさまざまな事業に役立てられています。

【問合せ先】地域福祉推進担当 ☎045-312-4813

【交通遺児援護基金】

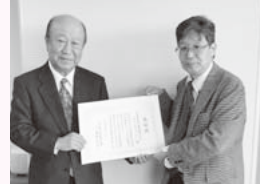
▽神奈川県石油業協同組合
▽アトミクス(株)▽(株)エスホケン (計359,000円)



アトミクス(株)より交通遺児援護基金へご寄附いただき、神保敏和代表取締役社長(左)へ感謝状を贈呈

【寄贈物品】

▽(株)三菱東京UFJ銀行▽新羽小学校特別支援学級▽(特非)日産労連NPOセンター「ゆうらふ21」▽神奈川県トヨタ自動車(株)▽小林佐代子▽広瀬浩子▽神奈川県定年問題研究会



(特非)日産労連NPOセンター「ゆうらふ21」より県内児童福祉施設等へミュージカル公演招待券をいただき、神奈川県地方協議会吉坂義正議長(右)に感謝状を贈呈



神奈川県トヨタ自動車(株)より県内児童養護施設等へクリスマスケーキをいただき、佐藤修一係長(左)へ感謝状を贈呈